

単元名：

「慣用句」

(全1時間扱い中 第1時)

授業日時 2021年10月14日(木)第2校時

授業学級 4年西組

授業会場 4年西組教室

授業者

指導者

(1) 主眼(授業の手立て&ねらい)

(○○の子ども達が)○○の場面で、○○を通して、○○を□□することができる／できるようになる。

いろいろな慣用句を調べてお気に入りの慣用句を見つけ、友達に紹介することを通して、慣用句のおもしろさを感じることができる。

(2) 展開

	学習活動	予想される子どもの反応	「授業者の主な発問」・※留意点・【教材】	時間
導入	1. 「顔から火が出る」という慣用句を知る。	・顔から火がほんとに出たの？ ・どういうこと？ ・顔から火なんて出ないよ。 ・それくらい顔が熱くなったのかな。 ・恥ずかしかったってことかな。 ・例えじゃない？	「先生、実習にくるときに電車に乗って、実習でつかう荷物をたくさん持っていたら、いろんな人にじろじろ見られて、顔から火が出るかと思ったよ」という。 ※子どもたちが聞いたとき「ん？」と思ってほしい。言葉のそのままの意味でも絵が想像しやすいため、この慣用句を聞いたときに「え？」と思ってもらいやすいと思う。またそこから慣用句の意味も理解しやすいため、この慣用句を選んだ。	5
	2. 慣用句を学習する。	・ほかにもいろいろあるのかな。 ・知ってるものもありそう。 ・ほかにもいろいろ知ってるよ。 ・わたしも知ってる！ ・いろいろ探してみたい。	1で「例え」「例」などのキーワードが子どもたちから出たら、そこで「慣用句」という単語と意味を教える。 慣用句という言葉と意味を教える。 「慣用句っていくつかの言葉が組み合わさって、新しい意味をもつようになった言葉のことで、そのままの意味ではない」という。「いくつかの言葉が組み合わさって、特別な意味をもつようになった言葉」の部分を板書する。 「顔から火が出る」という慣用句の意味を教える。 顔から火が出る→顔が熱い、赤くなる→恥ずかしいときになる、ということを理解し、いま使われている	5
【学習課題】「今日は、いろいろな慣用句を調べて、お気に入りの慣用句を見つけよう。」と言って活動へ。				

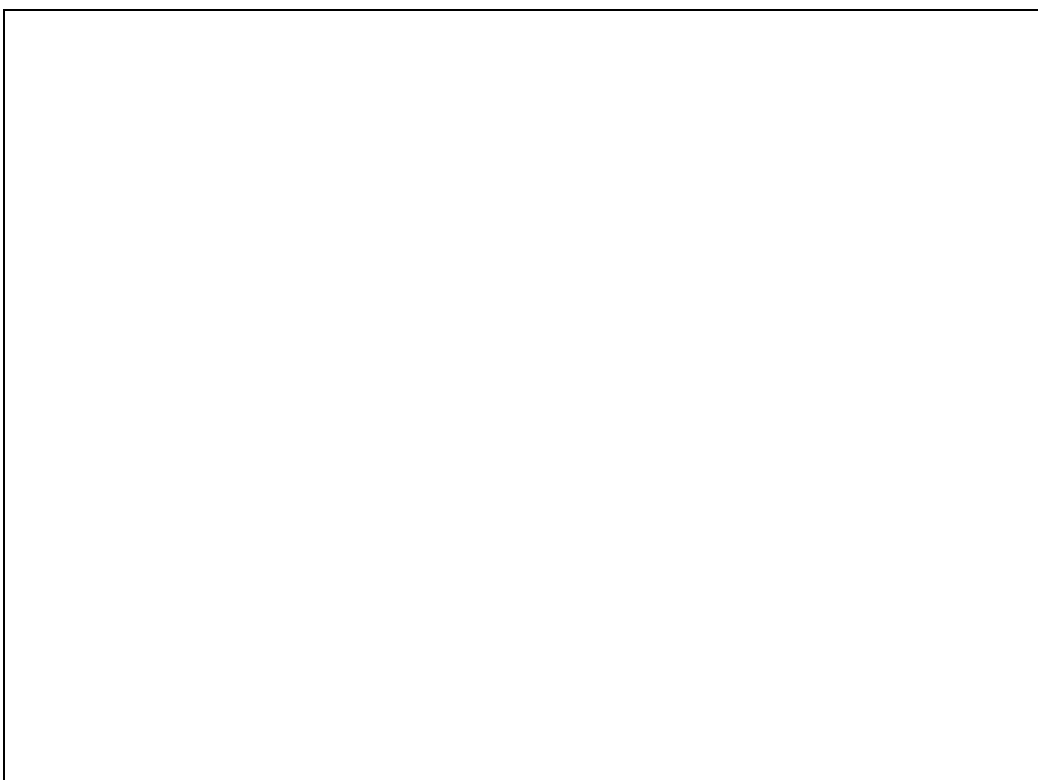
展開	3. お気に入りの慣用句を見つけ、それについての作品をつくる。	・わたしはこれにしたい。 ・これこんな意味なんだって。 ・慣用句だけ書けばいいの？真ん中に書いていいの？ ・意味とか載っているよ。 ・意味は書いた方がいいんじゃない。 ・使い方とか例文書きたい。 ・例文考えてみる！ ・選んだ理由とかもあったらいいんじゃない。 ・このサイト絵も載っている。 ・絵も描きたい。 ・「うり二つ」ってある慣用句あるけどほんとうにうりはそっくり！ ・「虫が知らせる」ってどういうことだろう。 ・「虫」の慣用句ほかにもあるよ。 ・ちょっと「息を殺す」をやってみようかな。 ・わたしも「猫の手も借りたい」ときあるなあ。	お気に入りの慣用句を見つけるように指示する。少し【クロムブック】などで検索しはじめたくらいで、A4の色画用紙を配り、そこにお気に入りの慣用句を書くように指示する。縦で使うことだけ指定する。 「このあとグループで紹介する」ということを伝え、だれかに伝えるために書くということを子どもたちに伝えるようにする。 「どこに書くのか」「慣用句のみなのか」という質問が出たら、「じゃああとなにを書こうか」という。 「意味」「使い方」「理由」「絵」などのキーボードを板書する。 慣用句と意味を書き、それに加えて、使い方、選んだ理由、絵をどれか書くように指示する。	20
	4. グループで発表する。	・〇〇さんの使い方がおもしろい。 ・選んだ理由もいろいろあるね。 ・絵にするとおもしろい慣用句もあるね。 ・知らない慣用句もある。 ・「さじをなげる」っていうのが嫌な気持ちっていうのはわかるな。 ・「足が棒になる」っていうのをそのまま絵にするとおもしろいな。でも疲れちゃったんだってわかるかも。	4人ほどのグループをつくり、そのなかで自分の選んだ慣用句を発表する。その後、掲示し全員の作品が見られるようにする。	10
終末	感想を書く。	・いろいろな慣用句があっておもしろかった。 ・おもしろい使い方があった。 ・イメージしてみると言いたいことがわかった。 ・	慣用句を学習した感想を書くように指示する。 【本時の評価（評価する対象）】 慣用句のおもしろさを感じている。（活動の様子、感想シート）	5

慣用句

授業の感想を書こう。

名前（

）



慣用句

授業の感想を書こう。

名前（

）

